

## 令和5年度 商業科「経済活動と法」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	情報処理科 3年C組
教科書	経済活動と法 (実教出版)	副教材等	経済活動と法 問題集 (実教出版)

### 1 学習の到達目標

ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得し、経済社会における法の意義や役割について理解する。  
経済事象を法的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。

### 2 重点目標

法の必要性和役割を理解し、自己の意見を発表できる力を養う。

### 3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章 経済社会と法	1 変化発展する経済社会と法	経済活動の円滑な流れは、法によって行われていることを理解する。 道徳・慣習・宗教上の戒律などの特徴をとらえ、法と比較しながら、法の本質を明らかにする。	授業態度観察  提出プリントの分析
	第2章 権利・義務と財産権	1 権利・義務とその主体 2 物と財産権	権利・義務の主体としての自然人及び法人について理解する。 物件の対象としての物の概念と範囲を理解する。	提出ノートの評価分析  指名による質問の解答分析
5		中間考査		定期考査の解答分析
6	第3章 財産権と契約そしてその保護	1 財産権と契約 2 物の売買 3 物の貸借	契約と財産権のかかわりについて理解する。 売買と貸借に伴う法律上の決まりについて理解する。  売買と貸借については我々の生活に密着しているため、具体例を挙げることで理解を深める。	提出プリントの分析  提出ノートの評価分析
		4 契約によらない財産権の変動"	契約・相続以外に、権利関係を変動させる制度である時効について理解する。  時効は、なぜ制度として存在するのか、その存在理由を考える。	授業態度観察 指名による質問の解答分析
7		期末考査		定期考査の解答分析
9	第3章 財産権と契約そしてその保護	5 財産権の保護	権利者が自己の財産を守るためにどのような対応をすればいいのかを理解する。  財産権の中で、物権にはその侵害に対して物権的請求権が認められるが、比較的身近な事例を多く示すことによって、具体的な知識・理解を得る。	授業態度観察  提出プリントの分析
	第4章 企業活動に関する法	1 企業活動の主体 2 営業活動の自由と制限 3 株式会社と法	商人とはどのような者をいうか、商人概念を理解する。 営業自由原則について理解する。 商人となりうるのは自然人と法人であることを明らかにする。  サービス産業の内容について理解する。 営業自由の原則の制限を整理する。	指名による質問の解答分析  提出ノートの評価分析
10		中間考査		定期考査の解答分析

11	第5章 取引に関する法	1 手形・小切手と法  2 金融取引   期末考査	営利社団法人としての株式会社の法的意義を理解する。  手形・小切手について法律上の要件と制度について理解する。  手形・小切手の基礎的知識を確認する。	授業態度観察  提出プリントの分析  指名による質問の解答分析  提出ノートの評価分析  定期考査の解答分析
12				
1	第6章 企業の責任と法  発展学習	1 法令遵守 2 消費者と一かしい消費者であるために 3 労働と法 4 家族と法   学年末考査	市民の生活を守る法律の存在について理解する。 特殊売買の性質などを「生活の知恵」として理解する。 消費者信用については、これから社会人を目指す若い高校生にとって必須の生活の知恵であるため、しっかりと理解する。 労働に関する一般性としての民法上の諸規定を理解する。 労働に関する特別法としての労働三法を理解する。 親族の範囲など戸籍を含めてその法律関係を理解する。  夫婦の法律関係について婚約・結婚から離婚・死別までの種々で適用される法律について理解する。 親と子の法律関係に適用される法律について理解する。  人の死亡に伴う財産の整理のあり方について学習し理解する。	授業態度観察  提出プリントの分析  指名による質問の解答分析  提出ノートの評価分析  定期考査の解答分析

### 3 評価の観点

関心・意欲・態度	経済生活やわれわれの市民生活が安定的に営まれることは、法の存在による「法化社会」であるからである。従って、法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しようとするか。
思考・判断・表現	ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができるか。
技能	新聞記事などを通してそれらのことが「法化社会」でどのように扱われ、条文と関連できるか具体的にとらえることができるか。
知識・理解	経済活動や市民生活のあるところ法あり、と実感し理解することが知識の裏づけをもってなされるか。

### 4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、 「思考・判断・表現」、 「技能」、 「知識・理解」 の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。
---

### 5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

授業前に教科書や問題集、ノートを机の上に準備すること。 提出物は、期日を守り必ず提出すること。 自分の意見を活発に発言すること。
--